

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
在宅看護概論	1 単位 (30 時間)	宮本千絵 (臨床経験 12 年)	3 年前期

**【学習目標】**

地域の生活者である療養者とその家族の特性を理解するとともに、その中で果たす在宅看護の機能と役割を理解する。また、地域包括ケアシステムの特徴について理解する。

**【授業の進め方】**

講義、グループワーク

**【授業スケジュール】**

- 1 在宅看護とは 在宅看護の目的と特性
- 2 在宅看護の変遷と社会背景
- 3
- 4 } 在宅看護の現状と役割・機能 (GW)
- 5 }
- 6 }
- 7 在宅看護と家族
- 8 家族発達理論
- 9 在宅ケアを支える制度と社会資源、ケアマネジメント
- 10 在宅ケアにおける関係機関・関係職種の連携
- 11 子どもを支える在宅看護
- 12 難病療養者を支える在宅看護
- 13 地域包括ケアシステムと認知症・在宅療養を支える退院調整
- 14 在宅看護の基本倫理
- 15 試験

**【教科書】**

ナーシンググラフィカ 21 地域療養を支えるケア メディカ出版

**【参考書】**

国民衛生の動向 厚生統計協会

**【評価方法】**

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
在宅援助論 I	1 単位 (15 時間)	宮本千絵 (臨床経験 12 年)	3 年後期

**【学習目標】**

訪問看護活動における基礎的知識を学ぶ。さらに、対象者が住み慣れた地域や家庭でその人らしく療養生活を送れるように看護師等が生活の場へ訪問し支援する実際とその意を理解する。

**【授業の進め方】**

パフォーマンス課題に取り組みながら、訪問看護活動の実際について主体的に学びさらに、発表を通して自己表現力を養えるように進める。

**【授業スケジュール】**

- 1 在宅療養を支える看護（訪問看護）
- 2 訪問看護の特徴と看護過程・訪問看護ステーションの機能と役割
- 3
- 4
- 5 } 訪問看護ステーションの設立
- 6 }
- 7 }
- 8 発表

**【教科書】**

ナーシンググラフィカ 8 健康支援と社会保障 公衆衛生 メディカ出版  
 ナーシンググラフィカ 21 地域療養を支えるケア メディカ出版  
 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院

**【参考書】**

適宜、授業で紹介する

**【評価方法】**

課題（70%）・レポート（30%）

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
在宅援助論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	渡辺 竹美 (病院看護師) 三井 美穂 (病院看護師) 六川 早百合 (病院看護師) 黒鳥 美幸 (病院看護師) 古川 賢一 (医師) 石田 一幸 (理学療法士) 宮崎 邦晃 (薬剤師)	3 年後期

#### 【学習目標】

在宅療養者の状態・状況に応じた看護について理解する。さらに、在宅看護における援助技術の特徴や工夫を知り、訪問看護師における基本的な看護技術を身に付ける。

在宅療養における多職種の役割と機能を理解する。

#### 【授業の進め方】

事例や演習から実際に体験し、イメージ化できるような講義を展開する。さらに、多職種からも多角的視点における在宅看護が学べるように進める

#### 【授業スケジュール】

- 1 対象者の状態・状況に応じた看護支援① (褥瘡発生時の看護)
- 2 対象者の状態・状況に応じた看護支援② (難病疾患：パーキンソン病)
- 3 対象者の状態・状況に応じた看護支援③ (脳血管疾患：脳梗塞)
- 4 対象者の状態・状況に応じた看護支援④ (高齢者・終末期)
- 5 対象者の状態・状況に応じた看護支援⑤ (がん終末期)
- 6 在宅における看護技術① (食事・栄養・排泄の援助)
- 7 在宅における看護技術② (       "       )
- 8 在宅における看護技術③ (清潔・排泄の援助)
- 9 在宅における看護技術④ (       "       )
- 10 在宅における看護技術⑤ (コミュニケーション技術)
- 11 在宅における看護技術⑥ (       "       )
- 12 訪問リハビリテーションの実際
- 13 訪問薬剤の実際
- 14 訪問診療の実際
- 15 試験

#### 【教科書】

ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア   メディカ出版

#### 【参考書】

配布資料

#### 【評価方法】

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
総合看護 I	1 単位 (15 時間)	富井 直美 (病院医療安全管理者)	3 年前期

**【学習目標】**

患者（家族）が安全に安心して医療を受けていただくためにどうしたらよいか考える  
医療の安全という知識を普段より意識し高めていく。

**【授業の進め方】**

講義、グループワーク

**【授業スケジュール】**

- 1 医療安全とは
- 2 内服与薬・転棟防止について
- 3 駐車業務
- 4 経管栄養による事故について
- 5 患者誤認
- 6 採取・まとめ等
- 7 K Y T
- 8 試験

**【教科書】**

系統看護学講座 統合分野 [2] 医療安全 医学書院

**【参考書】**

なし

**【評価方法】**

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
総合看護Ⅱ	1 単位 (15 時間)	目黒 美紀 (感染管理認定看護師)	3 年後期

**【学習目標】**

感染性疾患の理解や事例をとおり、看護師に求められる感染症看護の基礎知識を学ぶ  
施設内の感染防止対策の考え方、感染予防策の基本を理解する

**【授業の進め方】**

講義、グループワーク

**【授業スケジュール】**

- 1 感染症とは 医療関連感染と感染対策の必要性、感染症に関する法律
- 2 感染性診断、検査、治療と看護
- 3 看護に必要な感染予防策：標準予防策・感染経路別予防策
- 4 感染症 疾患の理解と看護
- 5 感染予防策の実際（グループワーク）
- 6 感染予知訓練（グループワーク）
- 7 アウトブレイク対応、職業感染対策
- 8 試験

**【教科書】**

系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] アレルギー膠原病・感染症

**【参考書】**

**【評価方法】**

筆記試験

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
総合看護Ⅴ	2 単位 (45 時間)	富澤 敦美 (臨床経験 32 年)	3 年全期

**【学習目標】**

既習の知識や技術を統合し、臨床で必要な基本的な技術を修得する

**【授業の進め方】**

グループ学習、パフォーマンス発表、技術演習

- 1 パフォーマンス課題に向けグループで計画を立て、主体的に学習を進める
- 2 他者にわかりやすくパフォーマンス課題の発表・指導をおこなう
- 3 演習を通して、それぞれの技術を習得する

**【授業スケジュール】**

- 1 診療の補助技術を学ぶということ  
治療・処置を受ける患者に必要な知識・技術の担当決定  
  - <技術演習項目> ①経鼻胃チューブ挿入(経管栄養法) ②吸引(口腔・鼻腔・気管内)
  - ③酸素療法・ボンベ取り扱い(人工呼吸器) ④点滴静脈内注射
  - ⑤吸入、輸液・シリンジポンプ取り扱い ⑥心電図(12誘導・モニター)
- 2 担当技術の学習①(学習・資料作成)
- 3 //
- 4 担当技術の学習②(シミュレーターを使用した技術・資料作成)
- 5 //
- 6 担当する技術練習と内容確認・修正・追加
- 7 //
- 8 資料印刷・発表準備
- 9 パフォーマンス発表 心電図
- 10 // 酸素療法・ボンベ取り扱い
- 11 // 吸入、輸液ポンプ・シリンジポンプ取り扱い
- 12 // 点滴静脈内注射
- 13 // 口腔・鼻腔・気管内吸引
- 14 // 経鼻胃チューブ挿入
- 15 演習の説明
- 16・17 演習 「経鼻胃管挿入、吸引」
- 18・19 演習 「輸液・シリンジポンプ、心電図、吸入」
- 20・21 演習 「点滴静脈注射」
- 22 反省・まとめ
- 23 筆記試験

**【教科書】**

各看護技術、形態機能学等の学習内容関連書

**【参考書】**

看護学、技術等の参考書

**【評価方法】**

筆記試験(70点)、授業態度評価(30点)